

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0193600640 | | |
| 法人名 | TNふれあいケアサービス株式会社 | | |
| 事業所名 | ふれあいの里グループホームふるさと(青い鳥ユニット) | | |
| 所在地 | 苫小牧市豊川町2丁目1-2 | | |
| 自己評価作成日 | 2025年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 2026年2月24日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F |
| 訪問調査日 | 2026年2月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ゆったりとした時間を過ごして頂きながら、それぞれの能力に応じて掃除や料理の下ごしらえなどの役割をもって活動する事で、日常生活にメリハリが付き出来る事の継続が自信に繋がるよう安全な中で自立を見守りサポートしています。
 ・外出支援を通して家族や地域との繋がりを大切にし、食事や買い物なども楽しんで頂ける時間を提供しながら馴染みの人や場所との関係が途切れる事のないよう支援しています。
 ・お一人お一人の自由と尊厳を守り、その人らしく安心して楽しく過ごして頂き個々のペースに合った暮らしを提供しながら寄り添い喜怒哀楽を共にし信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームふるさと」は、苫小牧駅からバスで15分程の幹線道路に面した場所に立地している2ユニットの事業所である。近くにはバス停や散歩が楽しめる遊歩道もあり生活環境に恵まれている。居間と食堂は明るく開放感のある造りで、利用者と一緒に制作した季節の装飾や写真などが飾られており、居心地のよい共用空間となっている。地域の祭りに参加したり、傾聴ボランティアの受入れ、市主催の写真展に出展するなど積極的に地域交流を行っている。職員は、利用者と一緒に自宅や昔の職場など馴染みの場所に出かけたり、買い物や外食などの個別支援に力を入れている。ケアマネジメントの面では、日々の記録を基に毎月モニタリングを行い、全職員で検討して一人ひとりが自立した生活が継続できるように取り組んでいる。毎月、家族に「モニタリング」表と手書きの手紙で本人の様子を伝えており、家族の安心感につながっている。食事は利用者と一緒に日々調理を行い、収穫した野菜での漬物作りや好きな献立で誕生日当日にお祝いするなど家庭的な生活を支援している。かかりつけ医の通院もすべて事業所に対応しており、医療面でも充実している。カルタや風船バレー、体操やカラオケなどのレクリエーション活動を毎日取り入れ、利用者が楽しく過ごせるように丁寧なケアを行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|-------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 正面玄関とユニット内に掲示しており、相談事や話し合いの際に確認しながら理念を共有し実践に繋がられるよう努めている。 | 理念の中に「ご家族や地域との結びつきを大切にします」という、地域との関わりを意識した文言がある。職員は理念を記載したカードを携帯している。理念にそって介護計画の見直しを行っているが、全職員で確認する機会も持ちたいと考えている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会では、お祭りや盆踊りなど季節の行事には入居者様と共に参加させて頂き地域の一員として交流できている。又、月に2度の傾聴ボランティア受入れ、苫小牧市主催の写真展に出展するなどしながら地域との繋がりを意識して取り組んでいる。 | 事業所前に来た子供神輿に、利用者が賽銭や菓子などを渡して一緒に写真を撮っている。傾聴ボランティアの実習生を受け入れている。事業所の行事に合わせてオカリナ奏者が訪れたこともある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ブログや運営推進会議を通して発信できている。又、高校生の短期実習受入れを実施し、新卒者の入職に繋がられるよう努め地域に貢献できるよう取り組んでいる。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年6回の開催で、ご家族の参加もあり日常の様子や職員状況・入退去など報告しながら話し合い、意見や助言を頂きサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。 | 町内会長や地域包括支援センター職員、家族も参加し、近況報告やヒヤリハット、研修や委員会報告などを行っている。参加者との質疑応答も行われているが、テーマなどは特に設けていない。会議案内と議事録は全家族に送っている。 | テーマを設けて会議案内に記載し、参加できない家族の質問や意見なども会議に反映させるよう期待したい。また、テーマにそった簡単な資料を作成し、全家族に送付するよう期待したい。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に出席して頂き情報共有・意見交換を行い、事業所の実情や対応に困る案件なども伝え相談しながら助言を頂き、協力関係を築けるよう取り組んでいる。 | 電話やメールで連絡することもあるが、書類提出で市役所に出向いた時に情報交換している。家族対応など、困難事例があればその都度相談している。運営推進会議やメールでも情報提供を受けている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的な不適切ケア防止委員会の開催と職員研修を実施し、全職員が知識を身につけ取り組んでいる。又、入職時研修にも取り入れ、身体拘束をしないケアを理解して頂いている。 | マニュアルを整備し、3か月ごとの不適切ケア防止委員会でグレーゾーンに関する事例にそって適切な対応について検討している。年2回の勉強会で「禁止の対象となる具体的な行為」を確認している。玄関は夜間のみ施錠し、日中も利用者の様子を見ながら柔軟に対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 定期的な委員会の開催と職員研修の実施を通して学び、全職員が虐待防止を意識し決して虐待が見過ごされる事がないよう気付いた事は共有し、互いに注意しあえるよう努めている。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部・外部で研修に参加し学ぶ機会を持ち取り組んでいるが、全職員までには至っていない。又、入居者様の後見人や保佐人の面会を通して必要性を確認しながら活用していけるよう取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約や解約・改定の際には、疑問点など確認しながら説明を行い理解と納得を図れるよう努めている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様、ご家族が、意見や要望など話しやすい環境作りを意識し、面会時やプラン説明時にも伺えるよう努め要望等があった際には職員間でも共有しながら反映させていけるよう取り組んでいる。 | 面会時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、タブレット端末に記録している。継続的に情報共有が必要なことは支援経過記録に記入している。毎月、家族にモニタリング記録と個別の手紙を送っている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、面談や定例会議を通して職員から意見や提案を聞き入れ、必要に応じて上長に報告・相談しながら事業所の運営に反映させられるよう努め、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。 | 日々職員の意見や提案を聞き取り、その都度全職員で話し合いながらケアの変更や業務改善に反映させている。管理者は年2回個人面談を行い、何かあれば随時話をしている。職員は係を分担して運営に参加している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は、職員個々の就業環境を把握した上で、希望や要望を尊重し向上心やスキルアップに繋がられるよう期待しつつ、必要に応じて上長に報告・相談しながら職場環境・条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的実施されている管理者研修・職員は法人内外の研修受講の機会を確保した上で、経験年数や一人一人の力量を把握し研修のテーマをもとに振り分け、なるべく全職員が平等に受講できるよう調整しながら取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 職員も外部の研修に参加する機会が増えた事で、同業者と交流し意見交換などの場を持つ事ができるようになった。又、管理者は他事業所や同業者と連携を図り活動しながら質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|-----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に面談を実施し、会話を通して不安な事や困りごと・要望を聴き、出来る限りで要望に応えられるよう努め入居後は関りを多く持ち信頼関係の構築に努め、1日でも早く新しい生活に慣れ安心して頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居者様ご本人と同様に、ご家族からも状況を伺いながら困っている事や要望を聞き、できる限りで希望に添えるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前に担当ケアマネや主治医から情報を収集し、必要な支援を見極めている。又、デイサービス利用など他のサービスも含め必要に応じて臨機応変に対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護される一方の立場で考えず、日々職員と一緒にできる事をしながら生活を共にし、互いに支え合える関係が築けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 要望などは聞き入れながらも、月に1度ご家族には日々の様子を伝え、ご本人が自分らしく安心した生活を送る為に必要な事を一緒に考えられる関係を築き協力を得ている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 大切な人や場との関係が途切れないようサービス内容にも取り入れ支援している。又、遠方から親族や友人・知人の方が面会に来られたり葉書や手紙も定期的に届いている。ご家族と外出・外泊も行う事が出来ている。 | 昔の仕事関係の知人が来訪する利用者がいる。友人からハガキが届いた時、返事の電話をかける支援を職員が行っている。職員と昔の職場や自宅を見に行ったり、好きなラーメンを食べに行くこともある。家族と一緒に外出や外食に出かける方も多い。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の関係性は把握できていて、一人ひとりが孤立する事のないよう食席を工夫している。入居者様同士の関わりでは、互いに支え合える関係が持っている方や状況に応じて職員が介入し関りが持てるよう援助している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、これまでの関係性を大切に思い関係を断ち切る事なく相談や要望を受け、必要に応じてフォローできている。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや意向を聴きながら把握に努めている。個々の状態により言葉での表現が困難な場合は、表情や発語を汲み取り思いを受止め、苦痛や不安を与えぬよう安心した生活が送れるよう検討している。 | 会話から思いや意向を把握できる利用者が多いが、難しい場合は表情などから読み取っている。センター方式シート(B-3)を6か月ごとに更新している。「生活歴確認書」を作成し、多くの情報を聞き取っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の情報・ご本人やご家族から聞き取り、生活歴やその人らしい暮らし方を把握し、職員間で共有しながら日々の支援に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員は一人ひとりの有する力を把握し、その力を活かしながら自分らしい日常生活を安全に送る事ができるよう自立を見守り支援している。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングは、毎月一人ひとり担当職員によって行い、ご本人やご家族の意向も取り入れ、会議を通して話し合い一人ひとりに合った介護計画を作成している。 | 計画作成担当者を中心に、利用者担当職員が行った毎月のモニタリングを基に話し合い、3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画に関する変化はタブレット端末の「ケアプラン」項目に記入し、モニタリングに活かしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や実践結果・入居者様の言動など、個別に記録し共有している。変化や気付きはアセスメントシートなどに記入していき介護計画の見直し・更新に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人ひとりの思いや、その時々状況・状態にも臨機応変に柔軟な対応ができるようサービスの提供に取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事への参加・出張理美容・傾聴ボランティアの受入れを通して、一人ひとりが安全に豊かな生活を楽しめるよう努め支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後の受診支援について説明し、かかりつけ医を変更するか否かはご本人・ご家族の意向を優先し対応している。事業所の協力医療機関では、月に1度の定期受診・特変時の臨時受診・月に2度の往診で対応し、医療情報ファイルに結果を記録し共有している。 | 協力医療機関の訪問診療を受けている利用者もいるが、かかりつけ医に通院している方が多い。通院はすべて事業所に対応し、健康状態を詳しく主治医に伝えている。受診記録はタブレット端末と「医療情報」の書面に記録している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 経過観察中の状態や特変時などは随時報告・相談しながら、早期に適切な受診が受けられるよう支援している。受診結果は、医療情報ファイルの他タブレットにも記録し会議では看護師から口頭で説明受け協働できている。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|----------------------------------|------|---|--|---|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は、介護添書やフェイスシートを作成し情報提供した上で安心して適切な治療が受けられるようにしている。又、できる限り早期退院に向け病院関係者と情報交換や相談を受けながら関係性を築いていけるよう努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けては、早い段階でご本人・ご家族と話し合い、グループホームですることできない事を明確にしていきながら、できる限りご本人・ご家族の意向に添えるよう地域・医療関係者と共に取り組んでいけるよう努めていきたいと考えている。 | 利用開始時に「ご利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」にそって説明し、訪問看護を含めた看取り対応について説明している。医療行為が必要な場合は看取りが難しいことも伝えている。体調変化に応じて主治医の判断の下、家族と方針を話し合っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルを作成し周知し徹底しているが、定期的な訓練は行っておらず今後の課題だと考えている。又、個別にeラーニング活用で研修を受けている職員は数名いるが実践力の習得に至っていない。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練実施の際には、地域からの協力体制を築いている。又、災害マニュアル(BCP)を作成し周知出来ているが万全とは言えず今後の課題と考えている。 | 消防設備会社の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を年2回行っている。うち1回は地域住民も参加している。地震時の対応を話し合っているが、訓練は近年行っていない。職員の救命講習は定期的に通講を進めている。 | 地震からの火災など、自然災害を想定した訓練を年1回は実施するよう期待したい。ケア別の対応についても話し合い、定期的に対応を再確認するよう期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 内外研修を通して常に言葉使など意識しながら対応し尊厳やプライバシーに配慮しながら取り組んでいる。 | 呼びかけは「さん」づけとし、職員は法人内のeラーニングや外部研修で接遇を学んでいる。申し送りを利用者から聞こえない場所で行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様との会話を通して希望や思いを引きだし受止めている。又、自己決定できるように簡単な選択肢を提示し支援できている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様1人ひとりのペースを乱さず、ご本人本意でその人らしく過ごしていけるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服へのこだわりや色の好みを聞きながら選んで頂き好みに合った選択が出来るように支援している。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立表を貼り出し事前にメニューが分かるようにしている。又、調理や盛り付け・下膳は一人ひとりの能力に合わせて職員と一緒にできるよう支援している。 | 法人の献立で食材が届き、調理や後片付けに利用者が参加している。誕生日には希望にそってラーメンや赤飯、炊き込みご飯などを用意している。個別の外食も支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分量は個別に記録を取り、職員間で共有し水分が不足している方には、時間問わず摂取できるよう支援していて、食事量も一人ひとりに合わせて提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後で、自発的に行っている方・声掛けで行える方・介助が必要な方がおられるので、一人ひとりに合った支援をしている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや促し・誘導を行い失敗やオムツの使用が減らせるよう自立に向けた支援を行っている。 | 現在は自力でトイレに行ける方がほとんどで、個々の必要に応じた支援を行っている。排泄状況をタブレット端末に記録している。誘導が必要な場合は直接的な表現を避けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 1人ひとりの排便状況を記録し職員間で共有しながら、看護師や主治医に報告・相談を行い指示や助言のもとで個々に応じた予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている | 時間の希望に沿う事はできていないが、入浴支援は毎日行っていて、入浴を拒否される方もいるが、1人ひとりゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。 | 毎日午前午後とも入浴でき、午後を中心に各利用者が週2～4回程度入浴している。同性介助とし、入浴を拒む場合も時間をずらすことで解決している。入浴剤の使用や湯加減の調整で気持ちよく入浴できるようにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人ひとりの生活リズムを把握し、その時の身体状態に応じて休息を取って頂けるよう声掛けなど行い、夜間も安眠となるよう配慮しながら支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は個々の薬剤情報を確認し理解に努めながら支援し、薬の変更や追加・減量などは引継ぎや会議を通して周知経過・症状の観察を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ゲームや体操・レクリエーションの参加で、張り合いや喜びを共に楽しんでいる。モップ掛けや食器洗いなど各々で役割を持って過ごし、余暇では童謡や歌謡曲を歌ったりしながら気分転換できている。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(青い鳥ユニット) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の希望するメガネ・靴・洋服などの買い物や散歩で支援している。又、ご家族の協力のもと外出・外食・外泊できている入居者様も複数おられる。 | 天気の良い日は午前午後問わず、事業所前の遊歩道などで散歩、外気浴を行っている。個別にメガネ店やドラッグストアへの買い物同行もしている。定期通院で外出する方や家族と一緒に外出する方も多い。昨年は行事として花見ドライブを行った。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持(自己管理)されている方も数名おられる。又、外出などで買い物をされる方には現金を渡し自ら精算して頂くよう促し見守り支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯を所持している方は自身のタイミングで自由に電話を掛けていて、そうでない方についても要望ある際には自由に電話をかけて話せるよう支援している。又、毎月遠方の親族から手紙が届いている方もおられる。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ゆったりとした空間で日々過ごされている。季節に応じて冷暖房の温度調整に気を配っている。装飾物は入居者様と一緒に行き季節毎に貼り替えていて、生活感ある心地よい空間づくりに工夫している。 | 2ユニットが1フロアにあり、ユニットごとの行き来がしやすくなっている。共用空間は広く清潔で、各所にソファや椅子が置かれている。壁には季節の装飾や利用者の写真、上品な絵や花の飾りなどがあり、親しみのある落ち着いた雰囲気となっている。温度や明るさも適切に保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファを複数配置し、複数人集まってDVD観賞をしたり、中には独りの時間を有意義に過ごされたりと、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 事前に相談しながら、できるだけ新規に購入するのではなく使い慣れた物を持ち込んで頂き、場所が変わっても見慣れた空間で居心地よく過ごせるようにしている。 | 居室にはテレビやタンス、テーブルなど利用者の馴染みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にはカレンダーや好きなサッカーチームのタオルなどを自由に飾っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりのニーズや能力に合わせ、杖や歩行器・車椅子でも安全に移動できるよう物の配置を工夫している。又、居室やトイレなどには目印を付け自立した生活が送れるよう工夫している。 | | |

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0193600640 | | |
| 法人名 | TNふれあいケアサービス株式会社 | | |
| 事業所名 | ふれあいの里グループホームふるさと(憩いユニット) | | |
| 所在地 | 苫小牧市豊川町2丁目1-2 | | |
| 自己評価作成日 | 2025年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 2026年2月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>・ゆったりとした時間を過ごして頂きながら、それぞれの能力に応じて掃除や料理の下ごしらえなどの役割をもって活動する事で、日常生活にメリハリが付き出来る事の継続が自信に繋がるよう安全な中で自立を見守りサポートしています。</p> <p>・外出支援を通して家族や地域との繋がりを大切にし、食事や買い物なども楽しんで頂ける時間を提供しながら馴染みの人や場所との関係が途切れる事のないよう支援しています。</p> <p>・お一人お一人の自由と尊厳を守り、その人らしく安心して楽しく過ごして頂き個々のペースに合った暮らしを提供しながら寄り添い喜怒哀楽を共にし信頼関係を築いています。</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F | | |
| 訪問調査日 | 2026年2月12日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ユニット内2か所に理念を掲げており、管理者・職員共に共有し実践に繋がられるよう努めている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 傾聴ボランティアさんの受け入れは継続しており、町内の夏まつりへの参加も実行できた。写真展の開催中3日間に渡り会場に出掛け楽しんできている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ブログで写真を掲載し雰囲気が伝わるよう発信している。高校生の実習受け入れの実施から入職へと繋がり地域貢献となっている | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議ではご家族も参加して下さっており、日常の様子を写真で回覧し入居者や職員情報の報告・意見交換等を行っている。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に出席して頂き意見交換や情報共有を行いながら協力関係を築いている。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的な不適切ケア防止委員会を開催し研修を行っている。全職員が知識を身につけ事前に予防できるよう努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的な虐待防止の委員会の開催・研修を行い学びを深めており、気づいた事は共有し注意し合えるよう事前予防に努めている。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修への参加や対象となる入居者の保佐人との面会を通して必要性について活用できるよう取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 改定等があった場合は管理者に確認しながら疑問点にも説明席できるよう努めている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会の際やケアプランの説明時等には意見や要望を伺えるよう努め職員間で共有できている。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例会議には出来る限りで職員や看護師も参加し意見交換を行っている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の状況に合わせて希望する勤務形態や休日の取得等を尊重し職場環境・条件整備を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員ひとりひとりに合わせた研修の提示、外部研修へ参加の機会を提供している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修への参加が増え意見交換の場を持つ事が出来ている。管理者は他事業所との連携体制を作っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人やご家族との面談を実施し、困りごとや要望を伺っており、入居後は関わりを多く持ち信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望を伺い不安や困りごとを聞き取り、出来る限りで希望に添えるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族に必要な支援を見極められるよう主治医やケアマネ等との連携を行っており、早急に対応が必要なケースですぐに入居出来ない時等は、法人内の別の施設で対応できるよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活の中で出来る事を見つけ、職員と一緒に行動する事で互いに楽しみ一方的な関係にならないような関係作りをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 月に一度、ご家族に日々の様子を手紙等で伝え、共に相談等し合いながら協力関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 遠方からの親族や友人の方との面会も行って頂いている。ご家族との外出、外泊も行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の関係性を見極め食事の席に工夫をしており、孤立しないよう職員が介入し関わりを持てるよう援助している。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も必要に応じて相談対応等の支援に努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の思いや希望を傾聴し意向を把握できるよう努めている。言葉にすることが難しい場合は表情や言動から思いを汲み取りその人らしい生活が送れるよう検討している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人やご家族からの聞き取りや、日々の関わりの中で思いや暮らし方を把握し職員全体で共有できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりのその日の過ごし方については申し送りにて共有し、その人のできる事できない事を把握し自立支援に繋げている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングは毎月行い、家族や本人の意向を取り入れ、会議で職員の意見交換を通して本人が安心できる介護計画の作成を行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や入居者の言葉は記録し共有している。変化等は個別ファイルへの記入、更新を行い介護計画の見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その人の状態に応じ外出支援や、不安を訴える入居者様には軽減できるよう新しい提案をする等柔軟な支援を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事への参加や傾聴ボランティアの受け入れを通し豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時にかかりつけ医を変更するか否かは本人・家族の意向を第一に尊重している。個々の状態に応じて定期受診・臨時受診・往診を実施し結果は医療情報ファイルに記入して共有している。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 状態の変化や経過・気づきは随時報告・相談している。受診結果などは記録を共有したうえで会議の時も口頭での再確認を行い看護師と協働している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には必要に応じて介護添書の作成を行い適切な医療看護が受けられるよう対応している。又、早期退院ができるよう病院関係者との情報交換を行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合はできる事とできない事を明確にしたうえで、家族の希望を尊重しながら支援の方法を考えている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っているが定期的な訓練は行えていない。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防訓練を実施している。 | | |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|--|---|--|--|
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 内部研修を通し尊厳やプライバシーを損ねない取り組みを行っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 普段の会話から本人の希望を伺ったり、選択肢のある言葉掛けを行う事で自己決定できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ある程度の1日の流れはあるが、本人の希望を優先しながらその人らしい過ごし方ができるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回出張理容にて散髪を実施している。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 事前にメニューを伝えて楽しみにして頂いたり、その人の能力に合わせ調理準備や盛り付け下膳等を職員と一緒に出来るよう援助している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分量は毎回記録しており状態の把握に努めている。又、その人に合わせた量や温度、形状で提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | その都度声掛けを行いその人に合った口腔ケアの支援を行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄のパターンや習慣を把握できるよう努め、車椅子の方でもトイレでの排泄を継続できるよう支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 看護師や主治医に相談し助言を頂きながら便秘予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 支援できる時間帯は決まってしまうが、毎日入浴支援は行っており、入浴拒否される入居者には無理強いせず別日で入ってもらおう等の支援を行っている | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活リズムを把握しその人の身体状態に応じて休息を取って頂いたり夜間ゆっくり休めるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 必要に応じて薬情の確認をしたり、薬の変更・追加等は申し送りや会議でも説明し症状の観察を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ユニットや居室のモップ掛け・食器洗い等できる事を行って頂いたり体操やレクレーションに参加し楽しんで気分転換して頂けるよう支援している。 | | |

ふれあいの里グループホームふるさと

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(憩いユニット) | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や散歩などの外出支援や写真展を見にイオンへ複数回出掛けている。ご家族の協力で馴染みのダンス教室へ行ったり外食を楽しんだりされている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一緒に買い物に出掛けた際にはお金の支払い等を行って頂けるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に応じて電話を使用して頂けるよう支援している。郵送で届いた手紙や葉書は本人に渡したり居室の壁に貼っていつでも見れるようにしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎朝共有部分の清掃を行い、冷暖房器具にて温度調節にも気を配っている。入居者様と一緒に作成した展示物を飾り季節感を取り入れている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間にソファを複数置く事によりひとりの居場所になったり、DVDやTVを皆が思い思いに楽しめる場所になるよう工夫している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談しできるだけ使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、仏壇、写真や本等好きなものに囲まれ心地よく過ごして頂けるよう配慮している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 補助具や車椅子でも安全に移動できるような家具の配置に工夫し、自分の部屋が分かるように目印や表示を行っている。 | | |